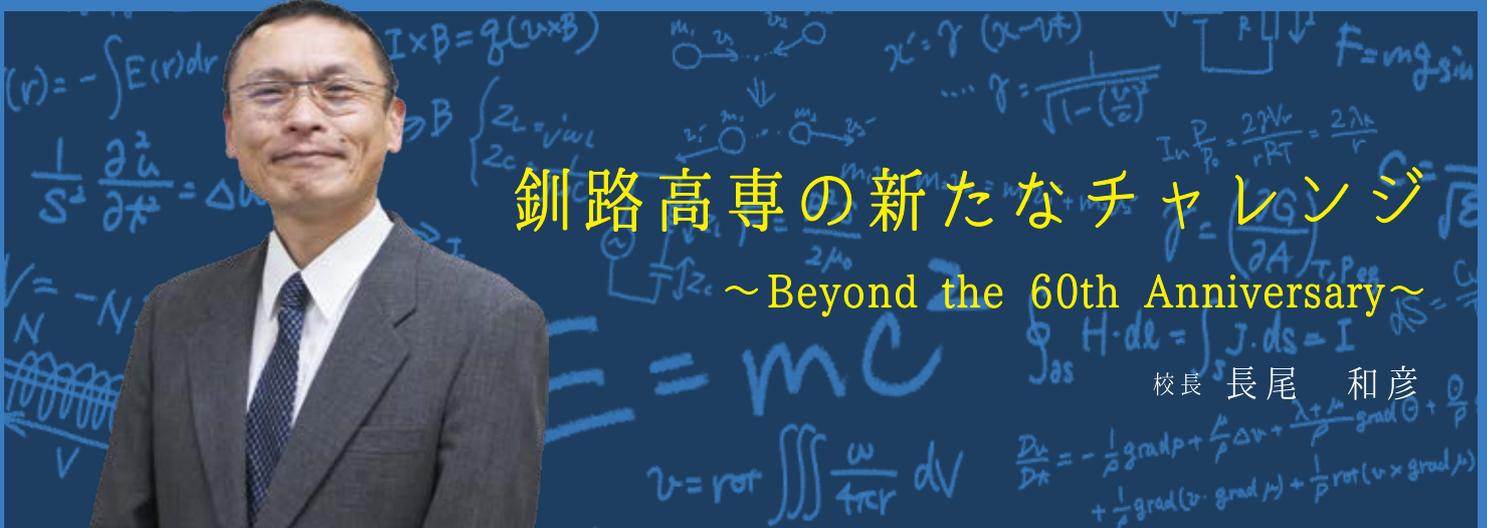


釧路工業高等専門学校

地域共同テクノセンターだより

第9号

2026年2月発行



釧路高専の新たなチャレンジ

～Beyond the 60th Anniversary～

校長 長尾 和彦

創立60周年という記念すべき節目を迎え、本校は新たなステージへと踏み出しました。長きにわたり支えてくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。私たちは今、過去の実績の上に立ち、この節目を単なる通過点とせず、地域と未来の期待に応える教育機関へと進化し続ける決意を新たにしています。

本校は、釧路地域で唯一の工業系高等教育機関として、地域産業の発展に貢献する使命を持ち、長年にわたり技術者やリーダーを輩出してきました。しかし、時代の急速な変化に伴い、地域からは単なる技術提供にとどまらない、イノベーションを牽引する起業家精神を持つ人材や、経営センスを持ちグローバル社会で通用する人材の育成が強く期待されています。

この期待に応えるため、本校は「釧路地域コンソーシアム構想」を推進しています。これは、地域企業、自治体、金融機関、高等教育機関が一体となり、人材育成、技術開発、そして地域課題の解決に共同で取り組むプラットフォームです。

この連携強化を通じて、学生たちが地域社会のダイナミズムを肌で感じ、そこで求められる専門性と社会性を磨く環境を整備します。

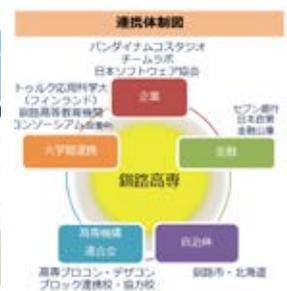
未来社会が求める人材像は、デジタル技術を駆使し、自ら価値を生み出せる「高度情報専門人材」と「アントレプレナー(起業家)」です。これに対応するため、全専門分野の力

りキュラムを抜本的に見直し、自身の専門分野と情報技術を掛け合わせる教育を展開します。また、地域の課題を題材としたPBL(課題解決型学習)を積極的に展開し、学生の実践力と問題発見能力を高めます。

学校経営においてもDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、学習管理システム(LMS)の高度化や事務手続きの効率化を図ることで、教職員が学生指導に集中できる環境を構築しています。

特に力を入れているのが、創造的な側面を担う「クリエイター人材プログラム」です。コンテンツ産業は日本の海外輸出において重要な役割を担っており、高専教育が持つ創造的(クリエイティブ)な活動の素養を活かします。本校では、ゲーム開発、3Dデザイン、VR、コンテンツ制作、UI/UX設計などを体得できる履修プログラムを策定し、学生が自由な発想で新しい価値を生み出すトレーニングを強化します。この取り組みは、学生のキャリア形成だけでなく、釧路地域の魅力をデジタルコンテンツの力で国内外に発信し、新たな魅力創出へとつなげることを目指します。

釧路高専は、60年の歴史で培った技術教育の基盤を大切にしつつ、変化を恐れず挑戦を続けます。学生たちが未来を切り拓く力を持ち、卒業後、地域社会や世界の舞台で活躍できるよう全力を尽くす所存です。本校が「地域連携の核」として活躍することを期待しています。



地域連携・研究推進事業(令和7年1月～令和7年12月)

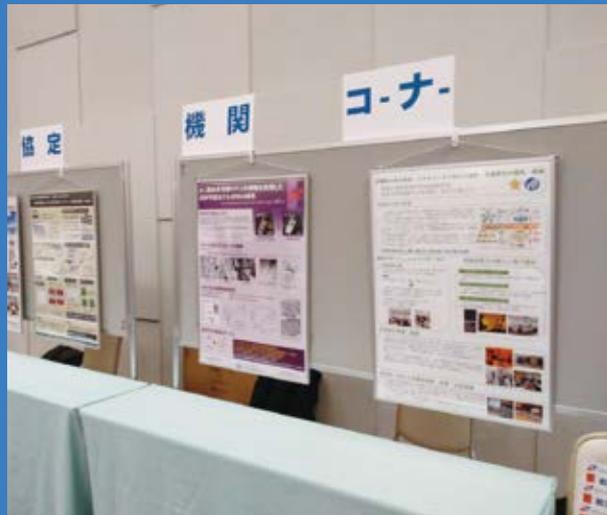
①道内4高専連携事業等

技術移転フォーラム2025 工業試験場成果発表会【出展】

(札幌市・6月3日)

北海道立総合研究機構 工業試験場・ものづくり支援センターが主催する発表会です。

例年道内4高専の教員が開発した成果物やポスターなどを展示し、企業や研究機関、他大学・高専との研究交流の場となっています。



北洋銀行ものづくり サステナフェア2025【出展】

(札幌市・7月23日)

道内の企業、教育機関、研究機関等が一堂に会し、情報交換や技術交流を通じて、産学官連携の促進や北海道のものづくり産業の振興を図ることを目的として開催されており、その年に発表する研究分野を決めて例年出展しています。

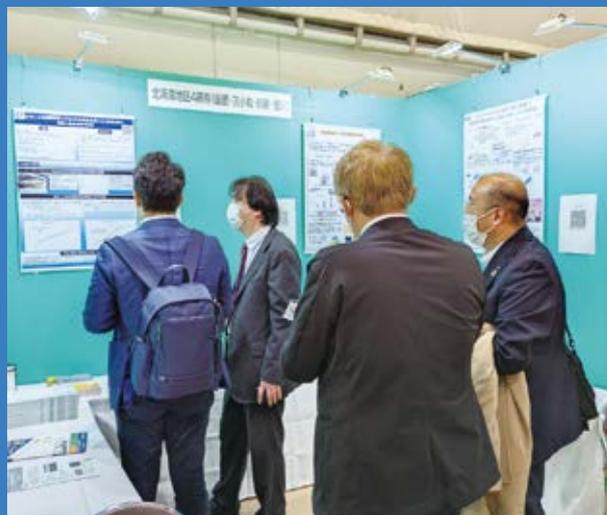


ビジネス EXPO【出展】

(札幌市・11月6～7日)

アクセスサッポロで開催されるビジネスEXPOは、今年度は「大変革に挑む北海道～ポテンシャルを真価に変える“未来創造イノベーション”～」というテーマで開催されました。2日間の来場者数は、昨年度を上回る計21,632名で、たいへん盛り上がりました。

例年、道内4高専で、研究に関するポスター展示を行っており、本校からは機械工学分野 石塚 和則 准教授が作成したポスターを展示しました。



② 釧路高専地域振興協力会等との連携事業等

釧路高専地域振興協力会総会

(釧路プリンスホテル・6月24日)

令和7年度の事業計画などが審議、了承されました。

また、長尾 和彦校長は「コンテストを通じた実践的プロジェクト開発教育の実践と展開」と題して、講演を行いました。



令和7年度専攻科学生特別研究発表会

(釧路プリンスホテル・12月9日)

専攻科学生の研究成果を地域企業及び一般市民に発表し、専攻科に対する理解を深める場として、例年釧路工業高等専門学校地域振興協力会及び本校が主催しています。

専攻科学生指導教員のほか、地域振興協力会企業会員や保護者の方々が、研究発表内容に耳を傾けていました。発表後の交流会では表彰が行われ、対象者には地域振興協力会から会長賞、特別賞、奨励賞が贈られました。



釧路工業技術センターとの研究交流会

(釧路工業技術センター・12月11日)

センターの職員や高専の教員が、専門分野や研究開発事例について発表し、技術・研究をはじめとしたさまざまな情報交換を行う場として、釧路工業技術センターが設立された2002年から毎年度開催しています。

草苺センター長の開会挨拶の後、機械工学分野の岡本 卓也助教による「画像処理を用いた付加製造物の評価」をテーマとした講演や施設見学、釧路工業技術センターから「釧路工業技術センターNEWS」に基づく事業報告が行われました。

参加者は、講演に耳を傾け、施設見学では3Dプリンター等の加工装置やユーグレナ培養装置に強い関心を持っている様子でした。



釧路高専学生のための仕事研究セミナー

(釧路高専・12月13日)

学生の就職活動への理解をより一層深めることを目的とした企業ガイダンスを開催しました。釧路工業高等専門学校地域振興協力会企業をはじめとした地元企業や、本校卒業生の就職実績のある大手企業など、合計122社の企業に出展いただき、本科4年生及び専攻科1年生を中心に合計100人以上の学生が参加しました。

学生からは、「これほど多くの企業が一堂に会する機会はなかなか、大変貴重な体験となった」「求人票だけではわからない内容を企業の方から直接聞くことができ、理解が深まった」といった声が聞かれました。



II 令和7年度科学研究費助成事業採択紹介

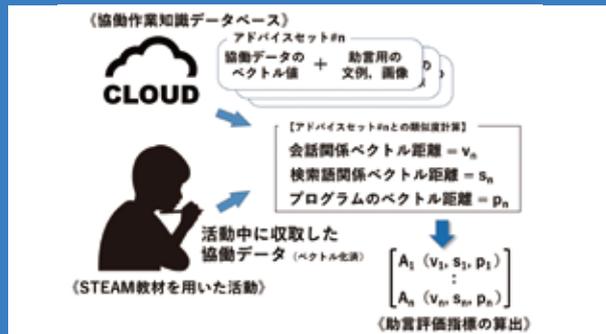
STEAM系協働学習にて個の活動を考慮して 助言するパーソナルチューターの開発

電気工学分野 教授 千田 和範 25K06484

Society5.0時代において、産業界では技術の高度化・複合化が急速に進み、専門分野の知識に加えて、課題を自ら設定し、多様な人材と協働しながら最適解を導く力を備えた人材が強く求められています。こうした背景のもと、初等中等教育から高等教育に至るまで、探究型・STEAM教育を基盤とした人材育成への転換が進んでいます。

このSTEAM教育の中核の一つが、対話を通じた協働的な問題解決です。学習者は仮説の立案と試行を繰り返しながら議論を深め、唯一の正解ではなく、状況や制約条件を踏まえた「納得解」を導き出します。この過程において、専門知識だけでなく、思考の柔軟性、説明力、合意形成力といった、企業活動に直結する汎用的能力が育成されます。一方で、近年の教育現場では、失敗を過度に恐れる、対話に踏み出せない、指示待ちに陥るといった受け身の学習者が増加しており、協働学習が十分に機能しない課題も顕在化しています。この問題は高専・大学に限らず、中学校の探究型授業でも共通しており、特に人員や指導経験に限られる地域では、教員の支援負担が大きくなっています。

本研究では、こうした課題に対応するため、協働学習の過程を学習ログとし



て可視化し、学習者一人ひとりの状況に応じた支援を可能とする教育支援システムの開発と実践に取り組みます。設計条件や試行結果、プログラムコードの変化、対話の履歴といったデータをベクトル化した上で分析することで、学習の停滞要因を把握し、適切なタイミングで助言を行うシステムを開発を目指しています。なお、この取組は、学生の主体的な学びを促進だけでなく、企業が求める「現場で考え、試し、改善する力」を育成する教育モデルとしての展開が期待できます。産業界との連携を通じて、実課題を題材としたSTEAM教育を高度化し、将来の技術者育成と地域産業の持続的発展に貢献していきたいと考えています。

旧雄別炭砒建築遺構群の実測調査

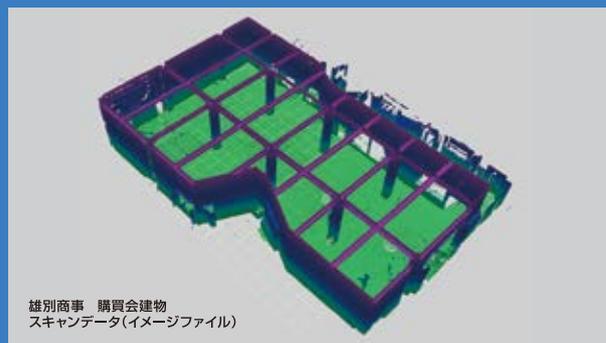
建築学分野 准教授 平澤 宙之 25K04582

本研究は、旧雄別炭砒跡地に現存するコンクリート遺構群を対象に、実測調査を通じて消失しつつある地域の歴史の一端を記録するとともに、市民に対してその存在を周知し、これらが「価値ある歴史的遺構」であるとの認識を醸成することを目的としています。

これまで筆者は、雄別炭砒病院を対象とした実測調査を行ってきました。本研究ではその対象を雄別炭砒全体へと広げ、現存する建築遺構群の実測調査および点群測量による図面化を通じて、道東地域における炭砒遺産の建築資料の補完を図ります。現在は主に現地での点群測量を中心とした調査を進めています。あわせて、築後半世紀以上が経過し、長期間放置されてきた鉄筋コンクリート建造物の劣化状況を明らかにするため、非破壊による目視調査および打診による強度推定を、共同研究者とともに実施しています。

点群測量にはLeica社製BLK360を使用し、少人数かつ短時間での計測により建物形状を高精度にデジタル記録しています。これらのデータを基に、将来的には建築モデルの復元も視野に入れています。さらに、ドローンによる空撮を併用することで、炭砒遺構群全体の形状や保存状態を客観的に把握していきます。

現在、これらの遺構群は人の立ち入りかほとんどない場所に残されており、地



域の歴史を後世に伝える貴重な史料である一方、自然劣化や崩壊に加え、人為的な損壊行為も確認されています。本研究では、山野に埋もれ消失の危機にある遺構の現状を建築的に記録することを通じて、将来的には調査成果を見学会や公開講座などで公開し、地域の歴史資産としての認知向上を図るとともに、市民の生涯学習に資することを目指しています。

なお、本研究は本校の鈴木邦康教授および西澤岳夫教授との共同研究として実施しています。

混合セメント硬化体を対象とした乾燥による 細孔構造変化予測に関する研究

建築学分野 准教授 野口 巧巳 23K13443

様々な建築やインフラ構造物に使用されているコンクリートですが、釧路などの寒冷地においては、冬期にコンクリート内部の水が凍結と融解を繰り返すことにより損傷する凍害劣化という劣化現象が発生します。そのため、寒冷地においてコンクリート構造物を長期間利用するためには、凍害劣化を予測し、適切な凍結融解抵抗性を備えたコンクリートを作ることや、発生した劣化に対して補修などを行うことが求められます。

そのようなことから、凍害劣化を予測する方法について数多くの研究が行われてきました。一方で、2000年頃からコンクリートが乾燥を受けることにより、微細構造が変化して凍結融解抵抗性のポテンシャルが低下することが明らかとなり、普通ポルトランドセメントを用いたコンクリートを対象として乾燥条件から微細構造の変化を予測する式を作成し、その式を用いることにより凍結融解抵抗性のポテンシャル低下を考慮した凍害劣化予測手法が確立されました。しかしながら、近年利用が拡大している普通ポルトランドセメントの一部を産業副産物に置換した混合セメントを用いたコンクリートでは、乾燥による微細構造変化の傾向が普通ポルトランドセメントを使用したコンクリートとは異なるため、

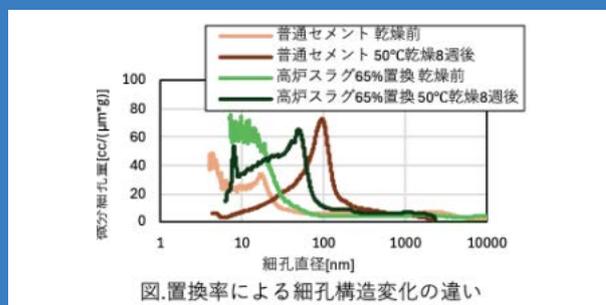


図.置換率による細孔構造変化の違い

乾燥を考慮した凍害劣化予測手法を適用することができないという課題を抱えていました。そのため、本研究では代表的なセメントの置換材料である高炉スラグ微粉末とフライアッシュを用いて、その置換率と乾燥時の温度がコンクリートの微細構造の変化に与える影響を明らかにして、関係式の作成を目的に研究しています。最終的には、すでに提案されている凍結融解抵抗性のポテンシャル低下を考慮した凍害劣化予測手法の中に作成した関係式を組み込むことにより、今後増加していくと予想される混合セメントを使用したコンクリート構造物に対しても凍害劣化予測を適用可能にすることを目標に実験の測定や分析を進めています。

III 外部資金による活動状況

AI技術を用いたATMサービス・運営の高度化

共同研究：株式会社セブン銀行

情報工学分野 教授 天元 宏

令和6年度に「センシング技術及びAIを用いた安心安全空間の実現」との題目で、デプスカメラと3D点群データに特化した深層学習モデルを利用し、ATM利用空間をAIが識別できるシステムを構築しました。種々の実験を通し、空間認識の精度面が高いレベルで理解できることを確認しました。令和7年度は「AI技術を用いたATMサービス・運営の高度化」との題目で、機械学習や生成AI(大規模言語モデル)を利用してATMにおける入出金を予測するAIの構築ならびに、生成AIによるATM利用方法に関する問合せ対応の再現実験に取り組んでいます。入出金の予測AIでは釧路における各種イベントの開催情報等も活用し、地域に特化した時系列予測AIの構築が可能か



どうかを検証しています。ATM利用方法に関する問合せ対応の再現実験では、生成AIによるお客様へのATM操作の支援が可能かどうかを検証し、併せて音声認識AIと生成AIの連携部を開発することで、お客様操作へのAIによる優しい支援が可能なシステムの構築を目指しています。

AIを用いたエゾシカとの衝突事故防止システムの開発

共同研究：釧路根室圏産業技術振興センター・一般社団法人釧路地域DX推進協会

電子工学分野 助教 山本 浩太郎

北海道における年間の交通事故の半分以上にエゾシカが関係しており、その件数は令和6年には5,460件に上り、調査を開始した平成16年から4.7倍にもなっています。

体重100~150kgになるエゾシカとの衝突事故は激しい衝撃により、自動車が廃車になったり運転者の身体にも被害を及ぼしたりします。エゾシカとの衝突事故の対策として道路への侵入を防止するフェンスや道路と動線を分けるアニマルパスウェイの設置が行われていますが、事故が頻発する区間であっても地形や費用の観点から設置が困難な場合があります。



そういった区間では道路標識や看板の設置により運転者への注意喚起が行われていますが、どの程度効果を得られているか定かでないまま実施されているのが現状です。そこで車載カメラの映像からAIによりエゾシカを検知し、当該車両および付近の車両の運転者に対して今まさにエゾシカが出没していると知らせることで効果的な注意喚起を実現するシステムの開発を行っています。

砂浜に着目した環境学習 ～砂浜海岸の維持を目指して

公益財団法人中谷財団 科学教育振興助成

一般教育部門 教授 小久保 慶一

現在、世界各地で砂浜の減少・消滅が深刻な問題となっています。砂浜の消滅は、海岸生態系の破壊、防災機能の低下、漁場の減少、水質汚濁、観光資源の消滅など、我々の生活に深刻な影響をもたらすことが懸念されています。本取り組みは、砂浜の果たす役割を、理科の生物・地学分野の学習内容と関連させながら探究することで、砂浜に対する関心と理解を高めるとともに、環境保護に対する課題意識を持ち、砂浜の保全に積極的に関わる姿勢を身につけることを目標としました。1年生の理科の授業では白糖町の恋問海岸の巡検を核とした探究学習を、2年生の有志による活動では、海浜植物の植生調査や海岸断面の測量調査などを定期的に実施しました。今回の調査からは、繁殖力の高い外来植物の海浜植物群落への侵入、砂浜



の傾斜も進行など、海岸の後退を予兆させる複数の要素が確認されました。今後もモニタリング活動を継続的に実施することで、砂浜海岸の現状把握と維持に必要な科学的知見の蓄積を進めるとともに、砂浜海岸を守っていくための具体的な保全活動についても検討していく予定です。

III 外部資金による活動状況

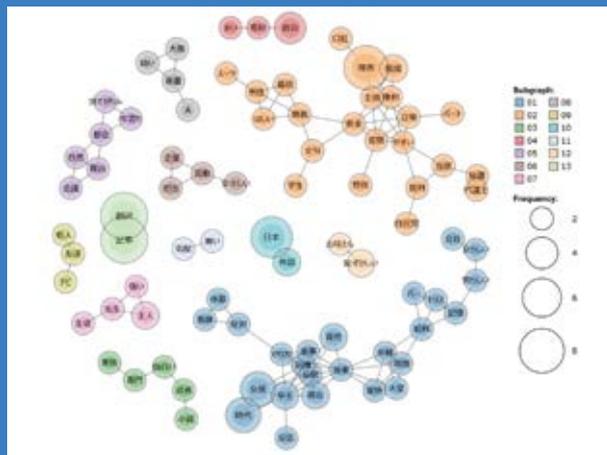
ジェンダー平等啓発資料に潜む『差別表現例示』のパラドックス

助成金：公益財団法人東海ジェンダー研究所

一般教育部門 准教授 大沼 敦子

「『男のクセに』はやめましょう」。自治体の啓発資料で見かけるこのような差別表現の例示は、皮肉にもその言葉を社会に広め、無意識の固定観念を助長するという「負の伝播」のパラドックスを引き起こしています。本研究では、この意図せざる「言葉の負」のメカニズムを、日本語表現「クセに」の機能分析と、全国自治体の啓発資料を対象とした大規模な調査を通じて説明します。

具体的には、過去5年間の全国の広報誌やウェブサイト等を網羅的に収集・分析し、差別表現を「例として示す」ことが人々の認知や意識に与える影響を言語学・社会言語学的な視点から実証的に明らかにします。本研究の成果に基づき、言葉の副作用を回避し、意識変容を真に促すための効果的



な啓発戦略を自治体等へ提言することを目指します。学術的な知見を具体的な社会施策の改善につなげ、より良い共生社会の実現に貢献したいと考えています。

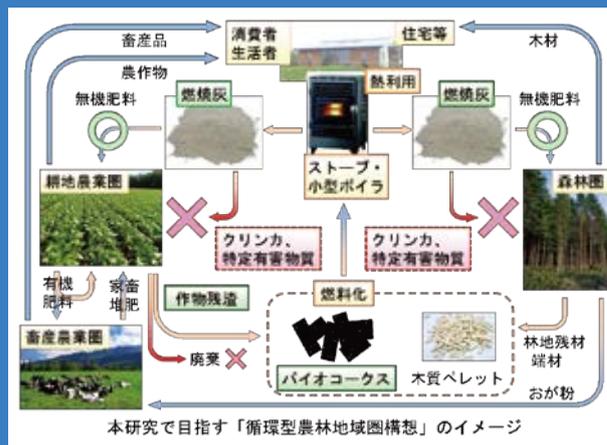
循環型農林地地域圏実現に向けた農業残渣バイオマス燃料の燃焼研究

助成金：一般社団法人スマートプロセス学会研究助成

機械工学分野 教授 川村 淳浩

本研究は、農作物の生産に伴って発生する非可食部（農業残渣）を原料として製造した高密度バイオマス固形燃料（バイオコークス）の燃焼後に残留する燃焼灰の有効活用を目指しています。具体的には、非天然由来成分を燃料製造に一切使用せずに、農業残渣に元々含まれる化学組成物質と燃焼灰に残留（濃縮）された化学組成物質を効率的・経済的に抽出し、これにより、地域環境への悪影響を及ぼさない必須元素の肥料として農地に施用できる他、近隣の牧草地や林地を含めた広大な農林地域圏の物質循環を実現することが可能となると考えています。

これまでの成果として、道東産小豆の収穫後に廃棄される非可食部（小豆収穫残渣）を主原料、米ぬかを副原料とした小豆収穫残渣バイオコークスについて、単位時間当たりの製造量とエネルギー効率に優れた連続製



本研究で目指す「循環型農林地地域圏構想」のイメージ

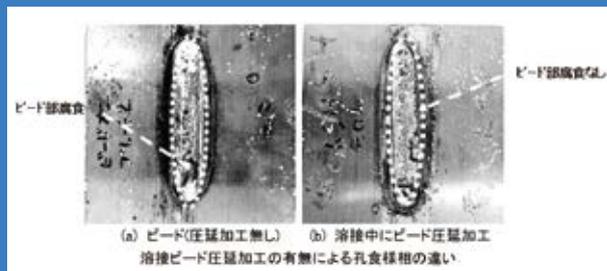
造が可能となりました。そして、市販の住宅用ペレットストーブを用いた燃焼実験（発熱量換算10 mass%）の結果、燃焼灰の肥料利用を妨げる粘結性クリンカの形成が抑制される条件が示唆されました。

塑性加工によるステンレス鋼溶接材の腐食低減法の開発

助成金：公益財団法人天田財団

機械工学分野 准教授 石塚 和則

2025年度後期より公益財団法人天田財団による研究助成を受け「塑性加工によるステンレス鋼溶接材の腐食低減法の開発」をテーマに研究に取り組んでいます。天田財団は研究開発助成の他、国際交流助成を行っています。そのうち研究開発助成は重点研究開発助成、一般研究開発助成、奨励研究助成の3部門に分かれています。一般研究開発助成は、塑性加工分野とレーザ加工分野で研究の募集が行われており、本研究は塑性加工分野の研究です。耐食性のあるステンレス鋼であっても3つの腐食因子が重畳して作用する場合、孔食が発生します。腐食因子には環境因子（塩化物イオンな



ど）、応力因子（溶接ビード近傍の残留応力）、材料因子（溶接による鋭敏化）がありますが、本研究は応力因子に着目したもので、溶接ビードの塑性加工により、残留応力場を効果的に変化させる方法を研究します。これにより腐食の低減を試みるものです。本研究を遂行するために必要な経費をご支援いただく天田財団に、この紙面をお借りしお礼申し上げます。

IV 寄附金、共同研究、採択科研費、その他助成金

寄附金

(単位: 千円)

研究代表者	相手先	寄付目的	金額
石塚 和則	公益財団法人天田財団	塑性加工によるステンレス鋼溶接材の腐食低減法の開発	2,979

共同研究

(単位: 千円)

研究代表者	相手先	研究題目	金額
本間 宏利	国立大学法人長岡技術科学大学	自然言語処理技術を応用した「動画説明文の自動生成」および「暗示的怒り表現の判別」に関する研究	500
市村 進	国立大学法人豊橋技術科学大学	OD法(Metal Organic Decomposition) による磁性薄膜の作製条件の検討	200
井戸川 慎之介	国立大学法人豊橋技術科学大学	半導体人財育成のための低学年向け集積回路教材の開発	200
山本 浩太郎	一般社団法人釧路地域 DX推進協会	AIを用いたエゾシカとの衝突事故防止システムの開発	91
山本 浩太郎	公益財団法人 釧路根圏産業技術振興センター	AIを用いたエゾシカとの衝突事故防止システムの開発	52
天元 宏	株式会社セブン銀行	AI技術を用いた ATMサービス・運営の高度化	1,300
石塚 和則	株式会社残間金属工業	DXを活用した溶接姿勢に対する溶接技能と電流・電圧・温度の関係性分析	130

科学研究費助成事業(採択分)

(単位: 千円)

教員名	研究種目	区分	研究題目	金額
千田 和範	基盤研究(C)	新規	STEAM系協働学習にて個の活動を考慮して助言するパーソナルチューターの開発	2,210
平澤 宙之	基盤研究(C)	新規	旧雄別炭鉱建築遺構群の実測調査	1,820
本間 宏利	基盤研究(C)	継続	ライフラインネットワークの自然災害耐性向上を目的としたグラフアルゴリズムの開発	1,300
池田 裕輔	基盤研究(C)	継続	現象学の伝統における超越論的哲学の展開に関する包括的研究の構築	130
西澤 岳夫	基盤研究(C)	継続	北海道に現存する戦争遺構の再評価	390
土江田 織枝	基盤研究(C)	継続	VDT症候群の誘因の予防となる「気づき」の習慣付けを支援するシステムの開発	910
小杉 淳	基盤研究(C)	継続	流体を利用した自然科学への児童生徒と高専生との協働人材育成プラットフォームの構築	1,040
野口 巧巳	若手研究	継続	混合セメント硬化体を対象とした乾燥による細孔構造変化予測に関する研究	130
グエン タン ソン	基盤研究(B)	分担	スマートパルス電源による誘電体の高効率活用手法の開発	650
三島 利紀	基盤研究(C)	分担	客観指標に基づいたポストコロナ対応型グループ学習による高専生命科学授業の開発	130
本間 宏利	基盤研究(C)	分担	「乳児虐待リスク予測システム(仮称)」プロトタイプの開発	0
岩間 雄介	基盤研究(A)	分担	デジタルツイン BESを用いた寒冷中小自治体のエネルギーセキュリティに関する研究	234

科学研究費以外の競争的外部資金(採択分)

(単位: 千円)

研究代表者	相手先	研究題目	金額
川村 淳浩	一般社団法人スマートプロセス学会	循環型農業実現に向けた農業残渣からの固形バイオ燃料の燃焼研究	1,000
小久保 慶一	公益財団法人中谷財団	砂浜に着目した環境学習～砂浜海岸の維持を目指して	300
大沼 敦子	公益財団法人東海ジェンダー研究所	ジェンダー平等啓発資料に潜む『差別表現例示』のパラドックス: 『男のクセに』『女のクセに』がもたらす負の伝播と再生産プロセス	500

V 本校教職員の研究シーズ・テーマ一覧

※印 科研費研究代表者

研究シーズ・テーマ			
校長	長尾 和彦	離島工学に基づくKOSEN人材育成プログラム	
	三島 利紀	教育相談(カウンセリング)を考える健康づくりを考える	
一般教育部門	池田 盛一	数学を楽しもう	
	林 幸利	ナサニエル・ホーソンの研究	
	山崎 俊博	教科教育(数学)及び凸解析(関数解析)の研究	
	舘岡 正樹	健康づくりとニュースポーツ	
	梅津 裕志	一般相対性理論と量子論の融合	
	小谷 泰介	代数的位相幾何学の研究	
	小久保 慶一	地域素材、地域性を生かした理科授業の開発	
	浦家 淳博	温度差による発電科学の楽しさの共有	
	舘下 徹志	横光利一を中心とする日本近現代文学研究	
	細見 佳子	法と諸規範による社会政策の研究	
	大沼 敦子	第二言語習得に基づく言語運用・コミュニケーション研究	
	村上 公一	超弦理論の非摂動的性質の研究	
	松崎 俊明	理科教育と生活指導～特別支援教育を視座にして～	
	宮毛 明子	素粒子論(超対称性、場の理論の研究)	
	高松 明日香	後期物語時空論『とりかへばや物語』を中心にー	
	宮尾 賢子	へき地校における教員とスクールカウンセラーの連携・協働	
	瀧川 貴利	ドイツの被追放民政策	
	矢野 隼人	シェイクスピア研究	
	菅原 崇	日英オノマトペの数量分析	
	上別府 陽	グラフのboxicityを中心とした、様々なグラフ不変量間の相互関係の解明	
	佐藤 潤	ゲルはいつ固まるのか?ゲルの形成過程の動的観察-	
	池田 裕輔	現象学と形而上学ーその関係についての研究	
	北本 浩之	素粒子論及びその宇宙論への応用	
	橋堀 恭矢	特異点論の微分幾何学的研究	
	王 霄漢	文学作品の受容研究 ー翻訳・改変を通じたテキストの読み替えー	
	情報工学分野	本間 宏利	最適・効率的な計算手法
		天元 宏	機械学習の基礎と応用
林 裕樹		画像情報の抽出・変換・活用	
土江田 織枝		人間と情報処理コンピュータリテラシー	
柳川 和徳		ヒューマンコンピュータインタラクションのための複合現実感映像技術	
鈴木 未央		あいまいな情報を計算機で扱う手法の実現	
シラ・ヴァクター アレックス		SNS投稿テキスト情報を活用した 観光支援口コミシステムの開発	
教育研究支援センター	田森 湧斗	自然言語処理を用いた本や文書の分析	
	高坂 宜宏	コンピュータを利用した便利な社会をめざして	
	小清水 誠	情報セキュリティ	
	二谷 聡志	Webでつながるコンピューター	
	樋上 磨	材料力学と振動工学の基礎的実験と複合材料の振動特性の研究	
	江口 陽人	構造用材料が備える強度、耐久性のメカニズム	
吉田 周平	建築外装材の耐候性		

研究シーズ・テーマ		
機械工学分野	川村 淳浩	省エネとスマートエネルギーによる地域環境の再生と地域社会の活性化
	渡邊 聖司	品質工学・感性工学の適用炭素繊維による汚水の浄化
	小杉 淳	空気や水の流れを科学する
	関根 孝次	構造物の強度・振動特性評価
	高橋 剛	地域ニーズに基づく社会実装型の材料・構造・ロボットSierに関する研究/教育
	赤堀 匡俊	物体の加熱・冷却・凍結・融解・乾燥を制御する
	石塚 和則	ものづくりと溶接に関する研究をサポート
	前田 貴章	生体医用光学 ～光計測と光伝搬シミュレーション～
	グエン タン ソン	先端材料の設計と創製に関する研究
	岡本 卓也	付加加工のための設計・製造と評価
電気工学分野	高木 敏幸	流れを見る
	佐々木 敦	中真空ガス中におけるアーク放電の利用
	佐川 正人	小気候学・地理学
	千田 和範	マンマシンインターフェース～人と機械の融合・協調・共存
	加藤 順司	超対称性に関する研究
	佐藤 英樹	電力用碍子の絶縁特性変動予測
	谷 亮尚	人間の行動特性のモデル化～使いやすい機械を目指して～
電子工学分野	伊藤 光樹	原子の移動制御手法を用いたナノギャップデバイスの開発
	山田 昌尚	音楽と言葉のコンピュータ処理
	高 義礼	帯電人体からの静電気放電の本質に迫る
	小谷 齊之	移動体のシステム開発と制御系設計
	市村 進	層状物質の創製
	山形 文啓	移動体向け無線IPネットワークの構築
	渡邊 駿	脳神経及び認知機能に関する研究
	井戸川 慎之介	BMIならびにヘルスケア応用へ向けた神経信号計測デバイスの開発
	山本 浩太郎	スポーツにおけるコンピュータビジョンの応用
	大槻 香子	街と、灯り/コンピュータリテラシー
建築学分野	鈴木 邦康	建築構造骨組の応力解析から建築物の維持保全まで
	西澤 岳夫	北海道東部における近代建築史
	千葉 忠弘	地域問題解決・分析・提案 住民参加のまちづくり支援
	平澤 宙之	歴史を生かした魅力あるまちづくり
	野口 巧巳	コンクリートの劣化予測・耐久性評価
	岩間 雄介	地域材を用いた木造建築と暖房エネルギーに関する研究
	中井 陽子	北海道の家づくり
教育研究支援センター	遠藤 祭	工作機械を使った加工
	的野 卓司	もの作りから加工方法を知る
	稲守 栄	電気的基础をあつかう 学習教材の試作をサポート
	渡部 勝喜	組込みシステムの開発と技術指導
	村上 誠一	コンピューター・ネットワーク最適な環境づくり

連絡先 釧路工業高等専門学校 総務課総務企画係
 〒084-0916 釧路市大楽毛西2丁目32番1号 編集・発行
 TEL 0154-57-7203 釧路工業高等専門学校
 E-mail soumu@office.kushiro-ct.ac.jp 地域共同テクノセンター